# 外国人児童の作文に見られる話し言葉

岩田一成

2015年10月10日　沖縄国際大学

日本語教育学会2015年秋季大会　パネル・セッション

齋藤ひろみ（東京学芸大学教育学部）、森篤嗣（帝塚山大学）

岩田一成（聖心女子大学）、中村和弘（東京学芸大学教育学）

司会　池上摩希子（早稲田大学）

# 1．話し言葉と書き言葉

リテラシー

:「社会に参加するためにテクストを理解し，活用する能力である」

↓

テクストの種類にあわせて，日本語のレジスターを選択できる能力も，社会参加には必要になってくる

# 例えば

「やっほー、岩田さん。
あなたの論文が超よかったので、指導教員になってほしいんだけど、いいかな？よろぴく」

なんてのは、明らかにレジスターの選択をミスしている

⇒その評価は相手によります・・・

# 1．話し言葉と書き言葉

学童期の言語発達の特徴（ライトバウン他2014）

① 語彙の増大

② 異なる言語域（レジスター）の習得（例　話し言葉と書き言葉）

⇒児童の書いた作文を話し言葉の混入という視点で分析する

すでに齋藤（2014），阿部・北澤（2014）で指摘はあるが、日本人と外国人の間にある具体的な違いはまだわかっていない。

# 表1　分析対象：小学生が書いた作文（2012年，2013年）

| | 2012J | | 2012F | | 2013J | | 2013F | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人数 | 文字数 | 人数 | 文字数 | 人数 | 文字数 | 人数 | 文字数 |
| 2年生 | 10 | 3215 | 15 | 13112 | 3 | 1747 | 7 | 2742 |
| 3年生 | 5 | | 26 | | 10 | | 12 | |
| 4年生 | 8 | 16761 | 21 | 39416 | 5 | 7428 | 23 | 29270 |
| 5年生 | 7 | | 20 | | 8 | | 21 | |
| 6年生 | 10 | | 20 | | 7 | | 20 | |
| 合計 | 40 | 19976 | 102 | 52528 | 33 | 9175 | 83 | 32012 |

# 2.『作文チェッカー』の開発

・『作文チェッカー』を開発（形態素解析にはunidicとmecabを利用）
・項目：話し言葉コーパスで書き言葉とは違う形式を持つもの
・項目例：「んだ（です），てる，みたいだ，けれど・けど，とく，ちゃう，んだって，って言う，よ，ね，たら」
・話し言葉形式の出現率（計算方法）

＜A[話し言葉形式出現数]÷（A+B[書き言葉形式出現数]）＞

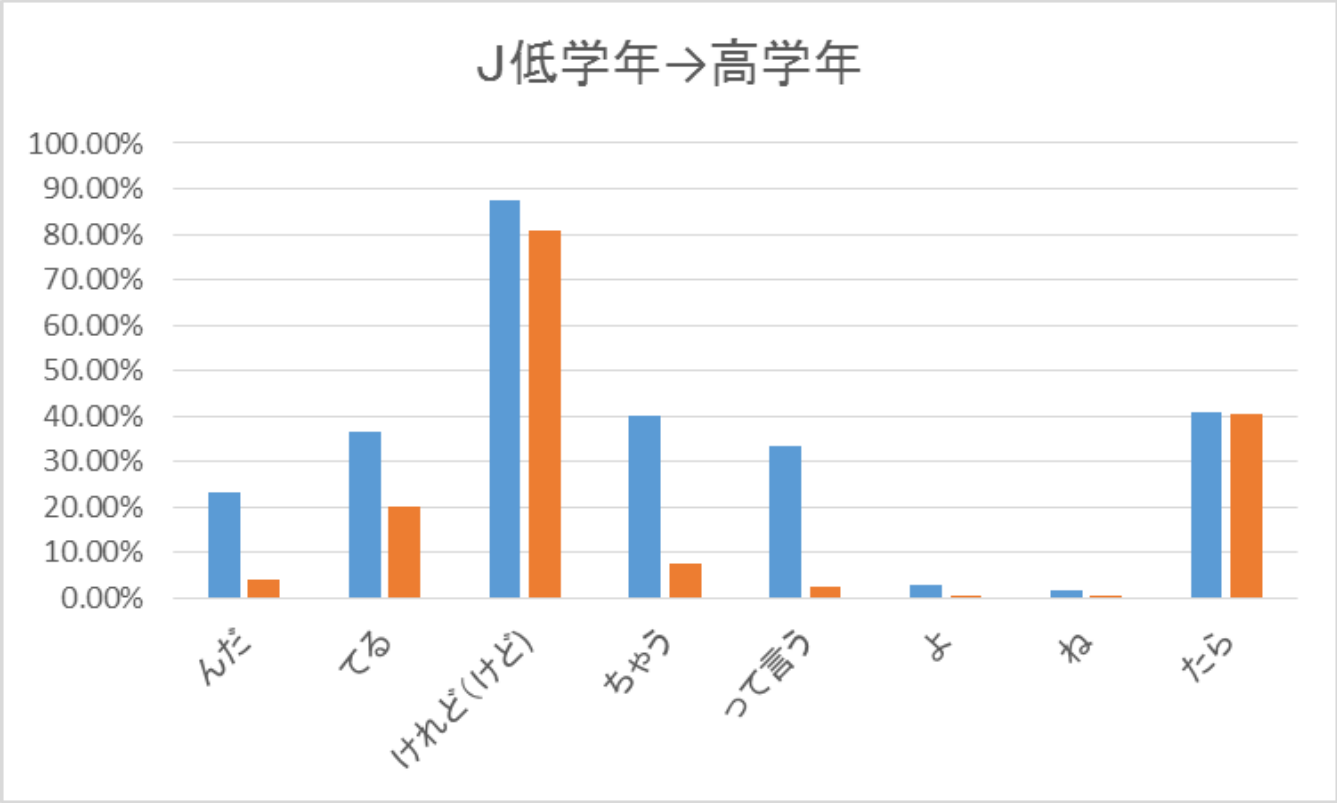
例 「んだ（です）」

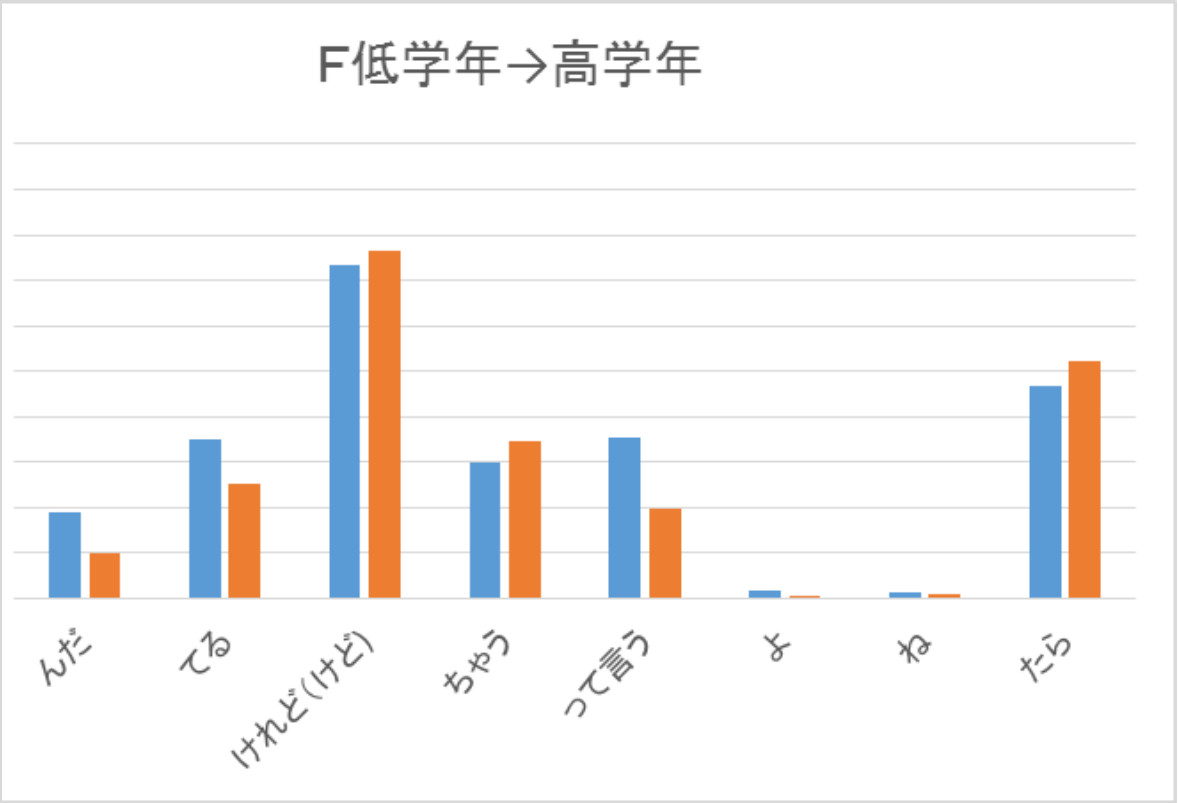
$$\frac{\text{「んだ（です）」の出現数}}{\text{「んだ（です）」と「のだ（のです）」の出現総数}}$$

# 表2　計算方法：各式を百分率で表示

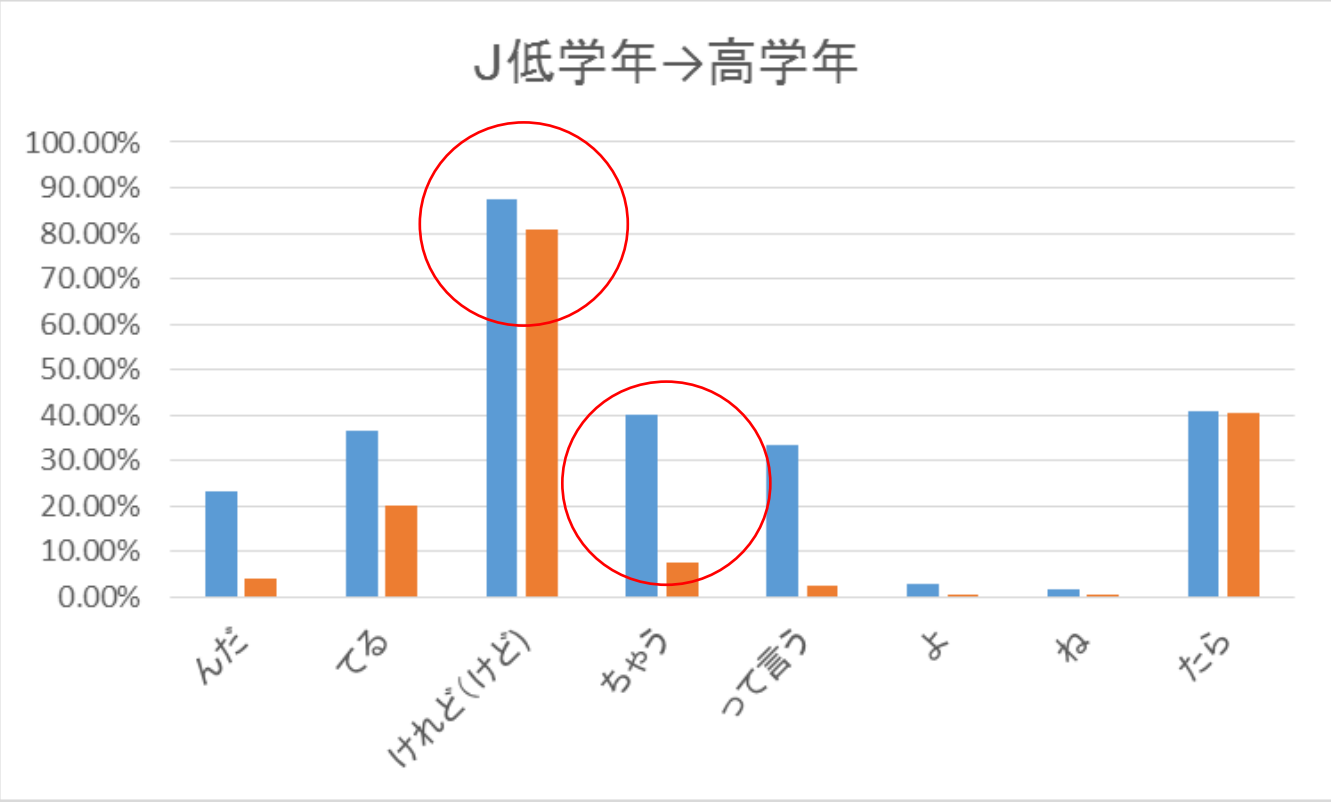
| | |
|---|---|
| 1　んだ | んだ（です)÷〔のだ（です)+んだ（です）〕 |
| 2　てる | てる÷(ている+てる) |
| 3　みたいだ | みたいだ÷(ようだ+みたいだ) |
| 4　けれど（けど) | (けれど+けど)÷〔が+(けれど+けど)〕 |
| 5　とく | とく÷(ておく+とく) |
| 6　ちゃう | ちゃう÷(てしまう+ちゃう) |
| 7　んだって | んだって÷(そうだ+んだって) |
| 8　って言う | って言う÷(と言う+って言う) |
| 9　よ | よ÷総文数 |
| 10　ね | ね÷総文数 |
| 11　たら | たら÷（と+ば+たら+なら+とき+場合） |

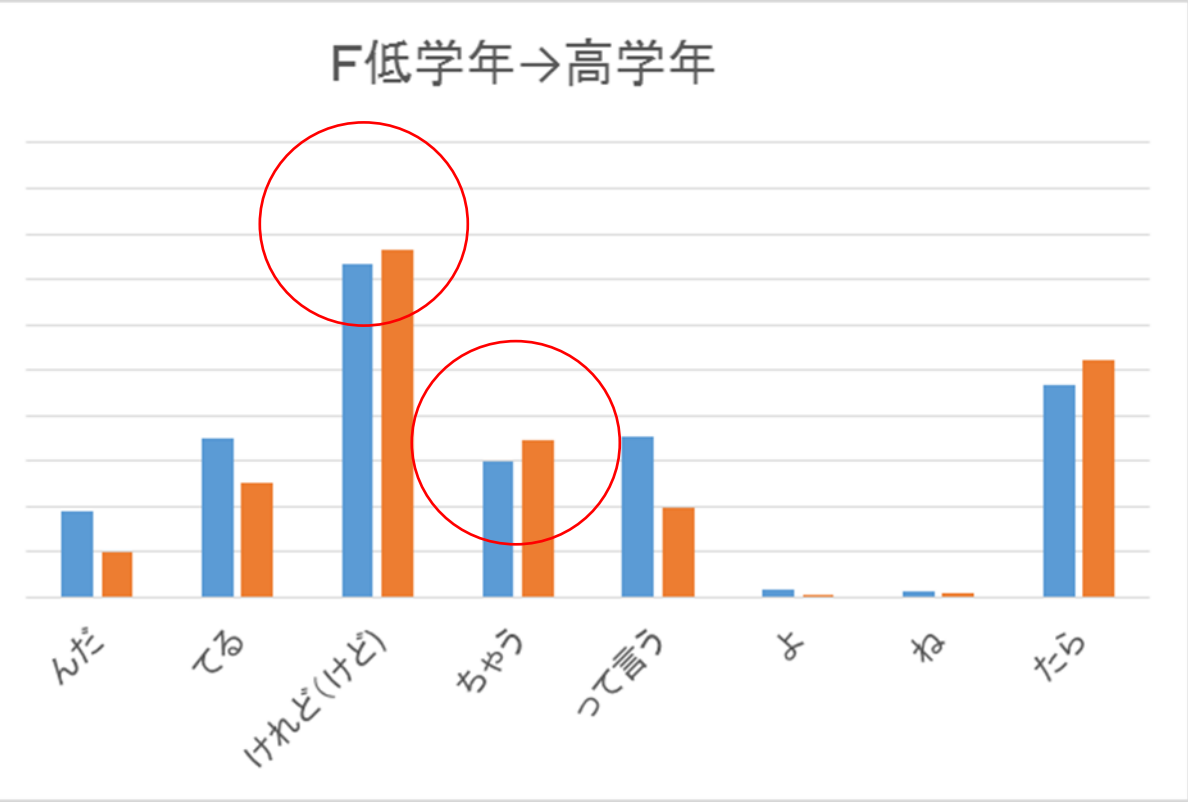
# 分析結果（表3をグラフにしました！）



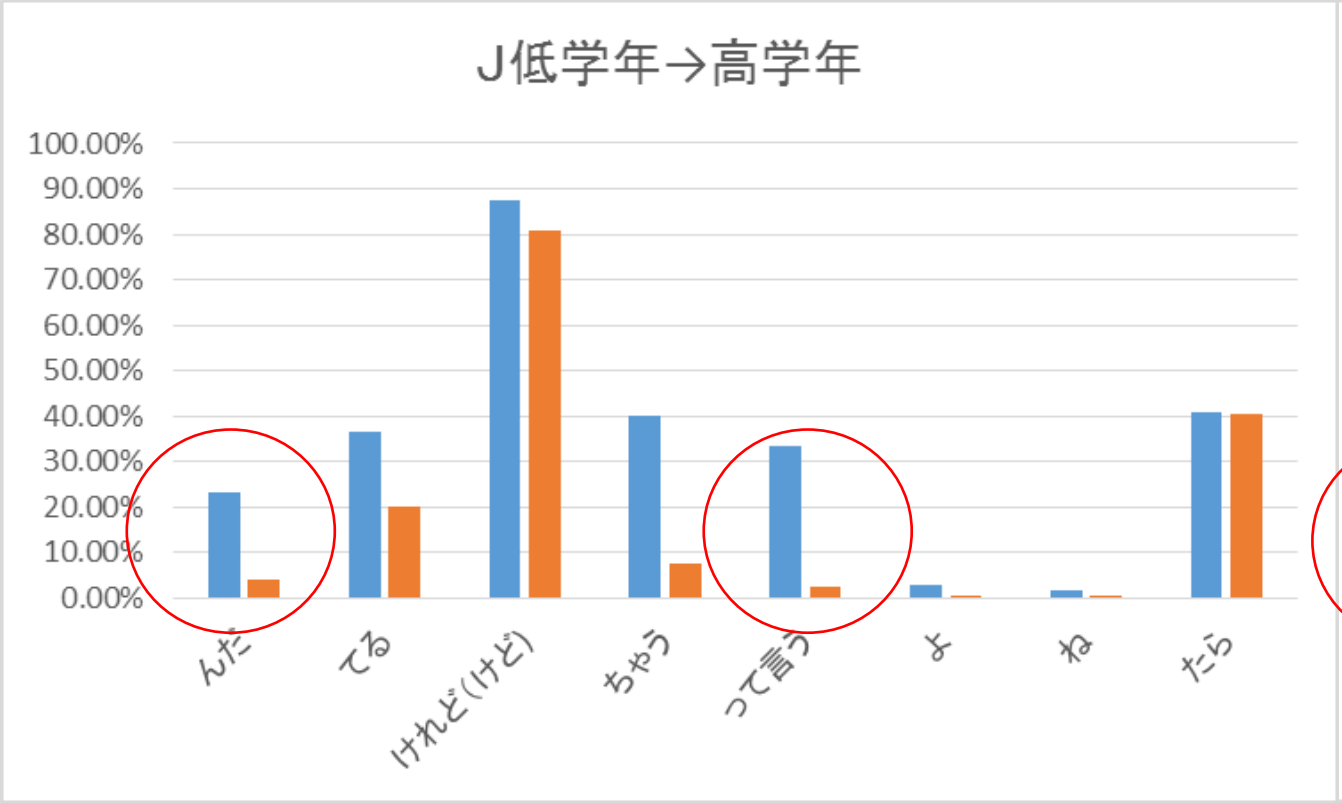



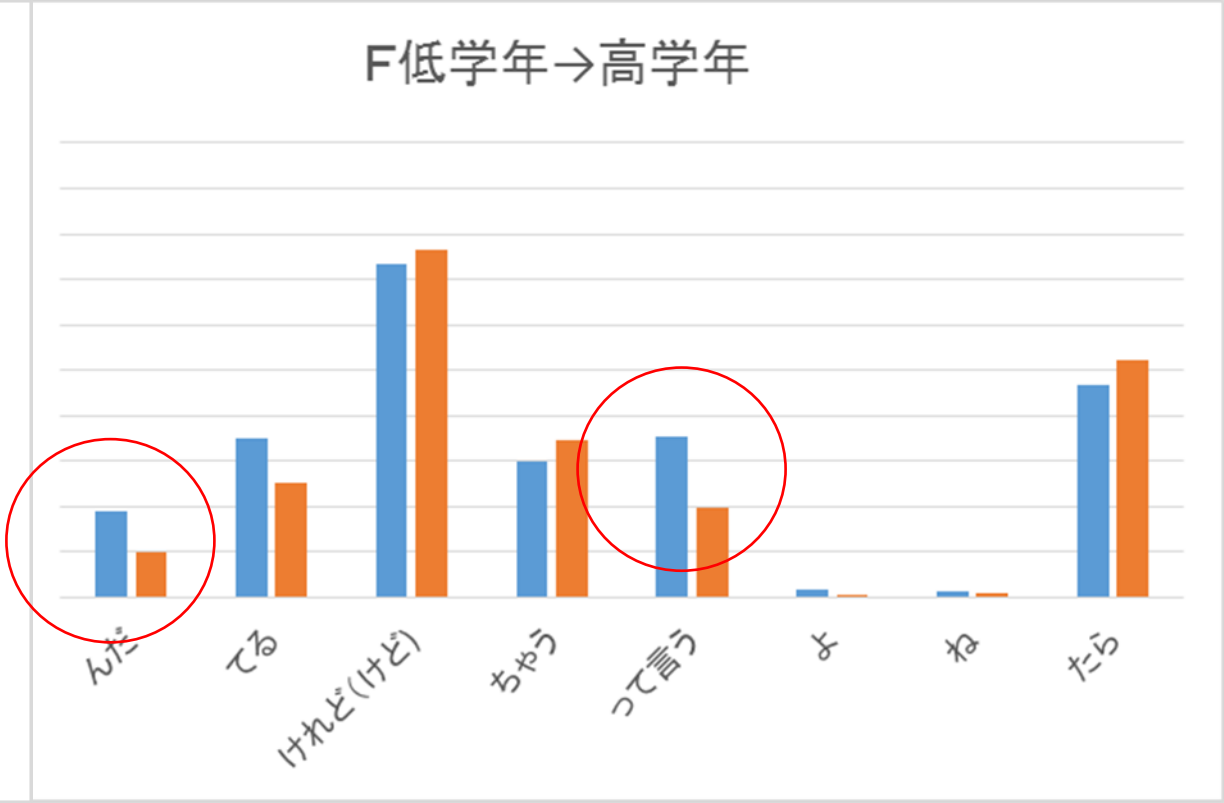
# 分析結果（表3をグラフにしました！）



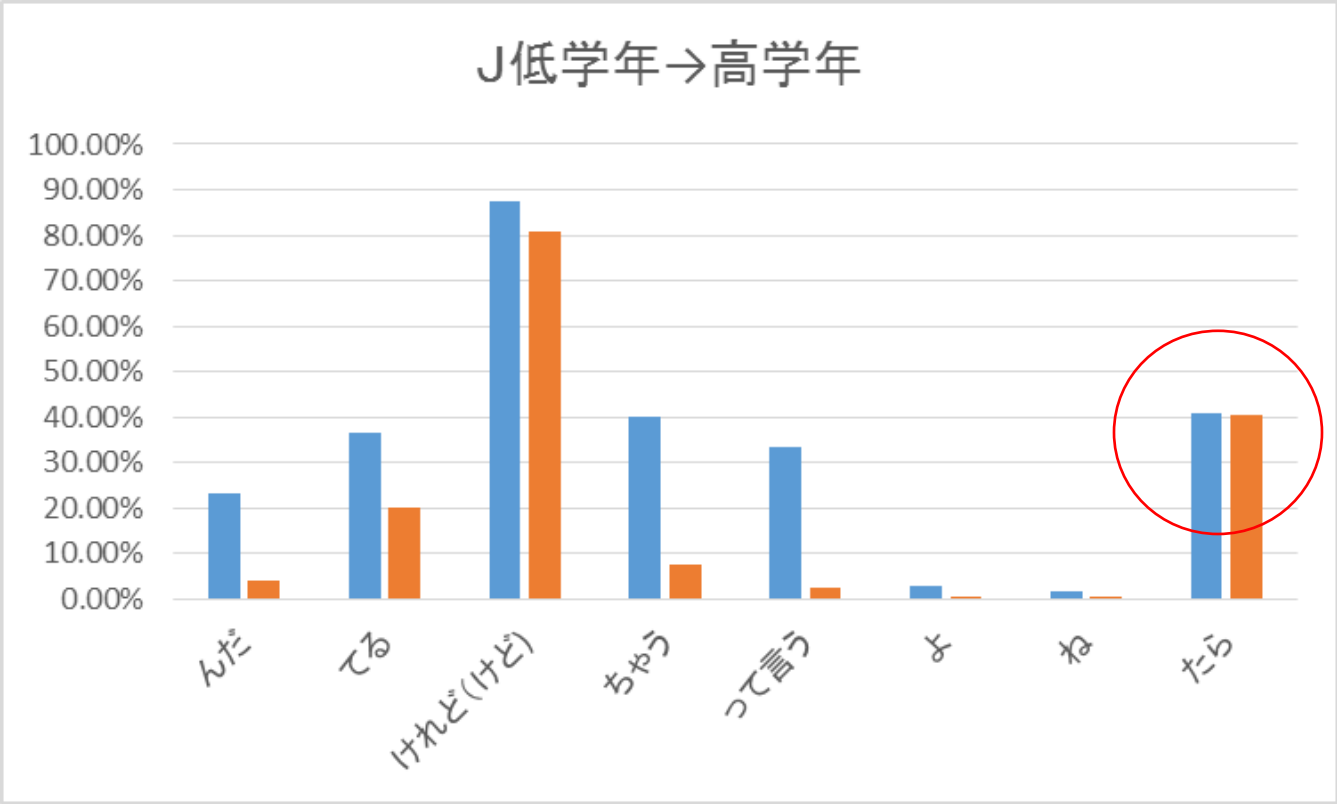



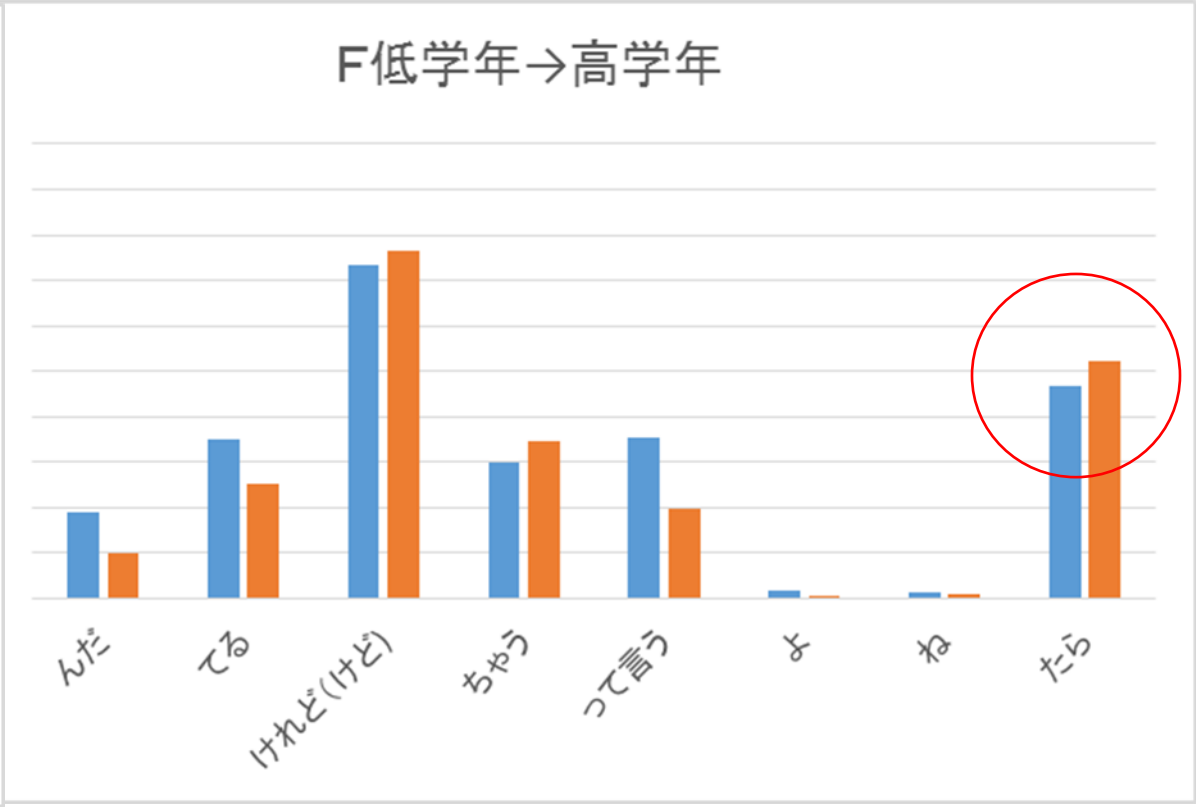
# 分析結果（表3をグラフにしました！）



# 分析結果（表3をグラフにしました！）



# ３．まとめと提案

話し言葉と書き言葉の混入は何が問題か？

１、不当に低い評価を受ける可能性がある
２、コミュニケーションがうまくいかない可能性がある
３、高次言語機能の発達に関わる？

# 3. まとめと提案

・本研究の結果では、学年（年齢）による「話し言葉と書き言葉」の違いに関する認識の発達が，日本人児童と外国人児童で異なる可能性がある

・研究を進めていけば，作文に混入している「話し言葉」を特定可能

⇒「話し言葉」と「書き言葉」との使い分けに関する指導内容を具体化

・原因予想　外国人児童は複数言語環境下で，プレリテラシーが日本人児童のそれよりも不十分な状態で入学する可能性

・学校活動への提案

　テキストタイプの意識化：課題に出す／教科教育で読むテキストタイプをどんなものにするかよく検討すべきである

＊作文のタイプにより，「話しことば」使用に対する評価は異なる

***謝辞***

unidicとmecabの開発関係者の方々には深く感謝いたします。またチェッカーが作動するのはプログラマーの中島明則氏（長岡技術科学大学）のおかげです。

***参考文献***

阿部志野歩・北澤尚（2014）「文法等の誤り」研究フォーラム配布資料

岩田一成・小西円（2015）「出現頻度から見た文法シラバス」『データに基づく文法シラバス』くろしお出版

齋藤ひろみ（2014）「日本生育外国人児童の作文力の発達―出来事作文の多面的分析を通して―」研究フォーラム配布資料

パッツィ・M.ライトバウン／ニーナ・スパダ（2014）『言語はどのように学ばれるか』岩波書店